

Ⅷ 2022 年度事業の点検・評価及び 2023 年度の事業計画

1 概要

文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(2012.12)では、公共図書館は、当該図書館の基本的な運営方針を踏まえて策定した指標及び目標と事業計画について、毎年度、自己及び関係者・第三者による点検・評価を行い、P D C A サイクルによる進捗管理の実施に努めることとされている*。

当館では、2014 年度から「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に準拠した基本的運営方針を策定するとともに、これを踏まえた毎年度の事業計画を策定し、事業計画及びその達成状況について、当館及び図書館専門委員会による点検と評価を実施している。

2023 年度は、「愛知県図書館の基本的な運営方針（第一期基本的運営方針）後半5年の行動計画」に基づく 2022 年度事業の達成状況の点検と評価を実施し、「第二期愛知県図書館の基本的な運営方針（2023-2027）」（第二期基本的運営方針）に基づく 2023 年度の事業計画を策定した。

*「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」第二（公立図書館）の一（市町村立図書館）の1（管理運営）の（一）（基本的運営方針及び事業計画）及び（二）（運営の状況に関する点検及び評価等）を参照。第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用される（第二（公立図書館）の二（都道府県立図書館）の6（準用）を参照）。

2 2022 年度事業の自己点検・評価

① 2022 年度事業の評価

2022 年度は、10 の行動目標について、59 の事業を計画し実施した。評価の概要については、下表のとおりである（詳細については、26～37 ページの別表 1 を参照）。

取組	行動目標	事業計画 の項目数	評価*				
			A	B	C	D	—
1 すべての県民への図書館サービスの提供	① 誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	15	13	2			
	② 地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充	9	8		1		
	③ 学校や地域、家庭での子供読書活動の支援	5	4	1			
	④ 資料保存体制の整備及びデジタル化の推進	4	4				
	小計	33	29	3	1		
2 市町村立図書館等への支援	⑤ 協力貸出、相互貸借の拡充	2	1	1			
	⑥ 市町村立図書館等の運用・人材育成の支援	3	3				
	小計	5	4	1			
3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成	⑦ 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供	5	4	1			
	⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	9	9				
	小計	14	13	1			
4 図書館活動を支える県図書館体制の整備	⑨ ものづくり文化、地域資料などの専門的な資料の収集と提供	4	4				
	⑩ 新しい取組みを担う県図書館職員の育成	3	2	1			
	小計	7	6	1			
	計	59	52	6	1		

※ 事業計画の点検・評価については、「あいち文化芸術振興計画 2022 年次報告書」の評価区分（下表）を使用。

評価区分	目標達成状況（評価の目安）	
A	予定を上回る効果があり、着実に進捗	100%以上
B	予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗	80%以上 100%未満
C	一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている	60%以上 80%未満
D	予定どおり進んでおらず、進捗が遅れている	60%未満
—	対象年度に、事業の実施が無い等により、評価不能の場合	

59 の事業項目のうち、A評価が 52 項目 (88.1%)、B評価が 6 項目 (10.2%)、C評価が 1 項目 (1.7%) で、A評価とB評価で 98.3%となった。また、「重点的に取り組む事項」として計画した以下の事項を着実に実施し、成果を上げることができた。

ア 県政 150 周年記念事業の実施

県政 150 周年記念事業として、「愛知県の建物 150 年」、「愛知県図書館報あゆち『愛知が舞台』と県政 150 周年」など、講演会 2 回、企画展示 8 回を実施。

イ Yotteko（ヨッテコ）の活用

1 階エントランス Yotteko(ヨッテコ)で、「祝 ジブリパーク開園！ジブリ関連図書展示」、「あいちアール・ブリュット作品展」など、42 回の企画展示を県の関係各課等とも連携しながら実施。

ウ 「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの充実

- ・ 新たにオーディオブック 111 点含む電子書籍を 439 点購入。
- ・ Web サイトに簡易な問合せに対応するチャットボットを搭載する実証実験を実施。

エ 貴重資料のデジタル化の推進

貴重和本等を新たにデータ化したうえで資料調査を進め、「貴重和本デジタルライブラリー」等の Web サイトで 17 タイトルを公開。

オ 図書館関係者への研修の強化

愛知図書館協会等のネットワークも活用し、オンライン開催等の手法も工夫しながら、館外向け 17 回、館内向け 12 回の研修を実施。

以上の結果から、事業計画は十分に進捗したと評価した。

② 運営指標（数値目標）の点検

「後半5年の行動計画」で定めた6つの運営指標（数値目標）の達成状況は、以下のとおりである。

取組	運営指標（数値目標）	2022年度達成状況	参考（2021年度）
1 すべての県民への図書館サービスの提供	I 入館者数(44万人以上) ※1	413,568人 (進捗率：94.0%)	418,219人 (進捗率：108.6%)
	II 利用者の満足度（「来館の目的が達成できた」が90%以上	来館者アンケートでの「来館の目的達成度」が87.6% (前年度比：2.0ポイント増)	来館者アンケートでの「来館の目的達成度」が85.6%
	III 蔵書検索アクセス数 (180万回)	2,364,940回 (進捗率：131.4%)	2,085,425回 (進捗率：115.9%)
2 市町村立図書館等への支援	IV 協力貸出の冊数（市町村立図書館向け 12,600冊以上※2、学校図書館向け年間 3,500冊以上※3）合計 16,100冊以上	市町村立図書館向け 10,215冊 (進捗率：81.1%)	市町村立図書館向け 11,365冊 (進捗率：105.2%)
		学校図書館向け 3,471冊 (進捗率：99.2%) 合計：13,686冊 (進捗率：85.0%)	学校図書館向け 3,467冊 (進捗率：173.4%) 合計：14,832冊 (進捗率：115.9%)
3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成	V 主要紙での評価（「プラス」評価が80%以上）	100%（15件中プラス：15件、中立：0件、マイナス：0件） (前年度比：21.4ポイント増)	78.6% (42件中 プラス：33件、中立：9件、マイナス：0件)
4 図書館活動を支える県図書館体制の整備	VI 職員の講師派遣・協会等での発表回数(20回以上) ※1	20回（講演等 17回、文献発表 3回） (進捗率：100%)	23回（講演等 21回、文献発表 2回） (進捗率：135.3%)

感染症拡大の影響を大きく受ける指標であることから、次のように数値目標を補正した。

※1 2021年度は元の数値目標（I：55万人以上、VI：24回以上）の70%、2022年度は80%

※2 2021年度は元の数値目標（18,000冊以上）の60%、2022年度は70%

※3 2022年度は元の数値目標（2,000冊以上）の175%（2021年度に元の目標値を大きく上回ったため、2022年度に上方修正した。）

上表のように、「III 蔵書検索アクセス数」が目標値を大きく上回ったほか、「V 主要紙での評価」、「VI 職員の講師派遣・協会等の発表回数」が目標値を達成した。また、「I 入館者数」、「II 利用者の満足度」、「IV 協力貸出の冊数」については、目標値の8割以上となっている。全体として、目標値を概ね達成しており、事業が進捗したことを反映した結果となっている。

3 2023年度の事業計画

第二期基本的運営方針の初年度となる2023年度は、同方針の施策体系に基づき、87事業を実施する。(詳細については、38～45ページの別表2を参照)

① 主な事業内容

ア 目指すべき姿1「すべての県民の「知りたい」に応える図書館」に向けた取組

- ・市町村立図書館等へ年間16,000冊以上の資料を協力貸出
- ・障害を持つ方への郵送貸出サービスを充実(新規)
- ・県図書館を応援していただく取組(あいちBookサポーター、雑誌スポンサー制度(新規))を活用した資料の充実

始め 32 事業

イ 目指すべき姿2「情報発信・交流活動の拠点としての図書館」に向けた取組

- ・1階エントランス Yotteko(ヨッテコ)等で企画展示や講演会を開催し、県政の情報発信と所蔵資料の一層の利活用を促進
- ・話し合いができるグループ学習席など、人が集まり交流する明るい空間を提供
- ・新たに制定された「あいち県民の日」(11/27)に関連する展示やイベントを実施(新規)
- ・SNS(Facebook、Twitter、YouTube)による情報発信を充実

始め 13 事業

ウ 目指すべき姿3「ネットワークのハブとなる図書館」に向けた取組

- ・県内図書館等の蔵書横断検索システム「愛蔵くん」等を提供するとともに、県内市町村立図書館との資料搬送定期便を運行
- ・愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館職員へ時宜に適した内容の研修を実施
- ・課題解決学習を始めとした探究活動や修学旅行等の事前学習の際に幅広く活用していただけるよう、テーマごとの学校貸出用セットを用意し、県立学校等へ貸出し(新規)

始め 22 事業

エ 目指すべき姿4「デジタル技術の活用により新たな社会に対応する図書館」に向けた取組

- ・電子書籍のコンテンツの充実を図るとともに、利用者拡大に向けた効果的なPRの方策を検討・実施
- ・Webサイト「愛知県関係地域資料ポータル」や「貴重和本デジタルライブラリー」等を充実
- ・県・市町村が発行したボーンデジタル資料*を収集・保存し、Webサイトで閲覧できる仕組みを試行(新規)
- ・Webサイトの利便性を向上させるため、Webサイト上で簡易な問合せに対応できるチャットボットを導入(新規)

始め 8 事業

オ 目指すべき姿5「持続可能なサービス環境を備えた図書館」に向けた取組

- ・司書職員としての専門性をより高め、サービスの提供に必要な最新の情報を提供する研修の受講を促進
- ・県図書館と市町村立図書館職員との人事交流を試行実施(新規)

始め 12 事業

② 数値目標

第二期基本的運営方針で設定した以下の9項目の数値目標に向けて取り組む。

目指すべき姿	目標	備考
1 すべての県民の「知りたい」に応える図書館	● 蔵書検索アクセス数 2,100,000回	
	● 利用者の満足度 来館者アンケートでの「来館の目的が達成できた」が現状(2021年度:85.6%)を上回る	
2 情報発信・交流活動の拠点としての図書館	● SNSの発信数と閲覧数 ・発信数 1,000件 ・閲覧数 900,000件	
	● 企画展示・イベントの実施回数 ・展示 50回 ・イベント 70回	
3 ネットワークのハブとなる図書館	● 県内図書館等への協力貸出冊数 16,000冊以上	
	● 市町村立図書館経由で貸出を利用する学校数 22校から24校以上に拡大	第二期基本的運営方針の目標 :2027年度までに35校
4 デジタル技術の活用により新たな社会に対応する図書館	● 電子書籍へのアクセス件数 現状(2022年度上半期:5,541件)を上回る	
	● デジタルアーカイブ公開数 1,131タイトルから1,140タイトル以上に拡大	第二期基本的運営方針の目標 :2027年度までに1,140タイトル
5 持続可能なサービス環境を備えた図書館	● 職員研修の受講者数 延べ500人以上	

4 図書館専門委員会での主な意見

2023年6月28日(水)に2023年度図書館専門委員会を開催し、2022年度事業の点検・評価及び2023年度の事業計画などについて、協議・検討を行った。その概要は次のとおりである。

① 2022年度事業の点検・評価について

- ・県政150周年記念事業の実施など、重点的に取り組む事項として計画した内容について着実に実施し、成果を上げることができている。
- ・数値目標についても目標を概ね達成している。
- ・事業計画は十分に進捗したと専門委員会としても評価した。

② 2023年度の事業計画について

- ・大変充実した事業計画である。
- ・県図書館がネットワークのハブとなり、様々な図書館との連携をさらに進めていって欲しい。
- ・県図書館は色々な新しい取組をしているので、(今年度から試行する)市町村立図書館職員との人事交流を持続的にしていただけると、お互いにプラスになる。
- ・市町村が保有する地域資料のデジタル化へのサポートにも取り組んで欲しい。
- ・様々な展示やイベントを行っているが、休み方改革の一環でラーケーションを進めると、図書館も一つの行き先となると考えられるので、学校に対しても広報して欲しい。
- ・障害を持つ方への郵送貸出サービスを充実するのは大変良い。より多くの方が利用できるような具体的な実施方法を検討して欲しい。
- ・事業計画の内容を専門委員会として承認した。

(別表1) 2022年度事業の点検・評価 (詳細)

取組 1 すべての県民への図書館サービスの提供

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
① 誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	障害者、高齢者、外国人などのニーズに即した図書館サービスを推進します。安全で快適かつ魅力的で利便性の高い施設環境を整備し、多様な交流と学習、探求、発見、賑わいの場を提供し、多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館を目指します。	(障害のある方へのサービス)
		(1) New! 視覚障害者等への朗読サービスを行うボランティア養成講座(中級)を開催します。
		(2) 社会生活を営む上でハンディキャップのある方への理解を深めていただくための資料の展示会や障害者の方の作品展などの企画展示事業を1回以上実施します。
		(高齢者の方へのサービス)
		(3) 感染症拡大防止に注意を払いながら、資料の展示会の実施などの代替企画の実施も念頭に置き、一般向けの健康講座を実施します。
		(4) 読書補助具の点検を行い、必要に応じて更新等を実施します。
		(外国人県民の方へのサービス)
		(5) 多文化サービスコーナーを充実するため、各外国語図書(日本語学習用資料を含む。)について、100冊を目標に収集します。
		(6) 多文化サービスコーナーの活用を図るためコーナーの利便性向上や効果的な広報に努めます。
		(子育て支援サービス)
		(7) 「おはなし会」を、安全対策をとり実施します。
		(8) 子育ての方に役立つ他の機関や団体のチラシやパンフレット類を常備し、案内・配布します。
		(施設環境・学習環境の整備)
(9) 来館者のどなたでも使えるフリーWi-Fiを全館的に運用します。		
(10) 施設の老朽化に伴う必要な改修工事を以下のとおり実施します。 ・制御・非常照明用直流電源装置更新工事		
(11) 若者や社会人の学習活動を支援するため、感染症拡大防止(「3密」回避)に留意しながら、大会議室での学習室開放を実施します。		
(入館者数・利用者の満足度) 【運営指標・数値目標見直し】		
(12) 利用者のニーズに応えるサービスの提供につとめ、年間44万人以上の入館者数を旨すとともに、90%以上の方が来館の目的を達成できるような資料やサービス環境を整備します。		
(危機管理)		
(13) 新型コロナウイルスや災害への対応について、業務継続計画(愛知県庁BCP、地方機関BCP)の運用や防災訓練の実施等により、適切に事業継続できる体制を整えます。		

評価区分	目標達成状況（評価の目安）	
A	予定を上回る効果があり、着実に進捗	100%以上
B	予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗	80%以上 100%未満
C	一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている	60%以上 80%未満
D	予定どおり進んでおらず、進捗が遅れている	60%未満
—	対象年度に、事業の実施が無い等により、評価不能の場合	

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
○ 朗読協力員養成講座（中級）を実施した（全5回、5/19～7/7）。	-	A	朗読協力員養成講座（中級）を実施し、朗読協力員のスキルアップができたため。
○ 「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」県入賞作品展の展示を実施した（12/13～12/27）。	A	A	ハンディキャップのある方への理解を深めていただくための企画展示事業を2回実施したため。
○ あいちアール・ブリュット作品展を開催した（1/13～2/28）。			
○ 健康講座「がん相談会」は、コロナ感染拡大のため中止としたが、資料の展示は実施した。	B	B	「がん相談会」は中止となったが、「認知症サポーター養成講座」を実施することができたため。
○ 認知症啓発展示の関連イベントとして「認知症サポーター養成講座（初級編）」を実施した。			
○ 各カウンターで日常的に点検した。	A	A	日常的に点検を実施しているため。
○ 多文化サービスコーナー用の各外国語図書（日本語学習用資料を含む。）について、160冊（うち電子書籍12冊）を収集した。	A	A	目標を上回る図書を収集し、コーナーの充実を図ることができたため。
○ 「やさしいにほんご」を用いた図書館案内チラシを作成し、当館内及び関係機関等に配布した。	A	A	既存の外国語に加え「やさしいにほんご」を用いた図書館案内を行うことで、コーナーの利便性向上及び多様な外国人県民の方への効果的な広報を行うことができたため。
○ 人数制限等の対策を取りつつ、おはなし会を毎月6回（休館日にあたる日を除く）、計65回実施した。	A	A	感染対策に留意しながら、コロナ前とほぼ同じ回数のおはなし会を実施できたため。
○ 職員が行う「冬のお楽しみ会」を3年ぶりに開催した（12/23）。			
○ 子ども向けのイベントや子育て関連のチラシ等を児童室内に常備し、案内・配布した。	A	A	子ども向け、子育て関連のチラシ等の配布により、児童室利用者に役立つ情報を提供できたため。
○ Aichi_Free_Wi-Fiを全館（1階から5階共用スペース）にて運用している。	A	A	Aichi_Free_Wi-Fiを全館的運用することができたため。
○ 以下の工事を実施した。 ・制御・非常照明用直流電源装置更新工事	A	A	当初予定していた工事を実施することができたため。
○ 大会議室での学習室開放を31回実施し、累計で886人が利用した。	A	A	予定通り実施し、多数の利用があったため。
○ 入館者数413,568人（目標値の94.0%）	B	B	年間入館者数、来館者アンケートの目的達成率ともに目標値をやや下回ったため。
○ 来館者アンケートによる目標達成率87.6%			
○ 防災訓練を実施した（11/10）。	A	A	当初予定していた事業計画通り実施することができたため。
○ 愛知県庁BCPの整理や地方機関BCPの修正を実施した。			

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
サシや誰でも利用しやすい図書館の推進 ①	障害者、高齢者、外国人などのニーズに即した図書館サービスを推進します。安全で快適かつ魅力的で利便性の高い施設環境を整備し、多様な交流と学習、探求、発見、賑わいの場を提供し、多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館を目指します。	(「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの充実) (14) 感染症拡大防止のため外出の自粛等「新しい生活様式」の励行が強く求められていることから、電子書籍サービスの充実やオンライン利用登録の導入等を検討し、非来館型サービスの充実を図ります。 (15) アンケートの実施等により、利用者層、利用目的等を把握し、今後のサービス内容検討のための資料とします。
		(レファレンス事例の公開登録) (16) 国立国会図書館のレファレンス協同データベースに、事例を20件以上登録します。 (行政支援サービス) (17) 県職員向け「県図書だより」を年間2回以上刊行します。 (18) 県図書館が所蔵する行政資料や地域資料の一層の利活用を図るために、県の事業や本県の特長（ものづくり等）に関連した企画展示を、県各局や関係団体と連携・協力し実施します。
② 地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充	地域の課題解決に役立つ図書館をめざします。ビジネス支援を拡充し、健康・医療サービス、行政支援などのサービスに取り組みます。また、地域の活性化や観光振興などのため、県内各地の取組を紹介したり、交流の場を提供します。	(ビジネス支援サービス) (19) ビジネス支援に関する講演会等の企画や関連資料の展示事業を専門機関や外部の団体と連携して実施します。
		(利用者向け図書館利用講座の実施等) (20) 利用者の調査研究を支援するため、館備え付けのデータベースの活用講座などを実施します。
		(行政機関・関係団体との連携・協力) (21) 県図書館が所蔵する行政資料や地域資料の一層の利活用を図るために、県の事業や本県の特長（ものづくり等）に関連した企画展示を、県各局や関係団体と連携・協力し実施します。《(18)の再掲》 (22) 2022年度が本県県政150周年であることから、県政にちなんだ講演会などの企画展示を実施します。

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子書籍サービスに、新たなタイトルを439点提供開始した。 ○ オンライン利用登録を運用した。 	A	A	新たに資料を加え、電子書籍サービスの充実を図るとともに、オンライン利用登録を運用することができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 県政世論調査を実施した（7/1～7/20、広報広聴課） ○ 愛知県図書館ホームページ利用状況アンケートをWeb上で実施した（12/15～1/31）。 ○ 来館者アンケートを実施した（2/17・2/18）。 	A	A	毎年度実施している来館者アンケートに加え、県政世論調査およびホームページ利用状況アンケートを実施したため。
○ 3月末までに20件の事例を登録した。 （2022年度現在 累計441件）	A	A	計画どおり、20件のレファレンス事例を登録することができたため。
○ 2023年3月にVol. 1、Vol. 2を刊行した。	A	A	年2回刊行し、第二期基本的運営方針の内容などを周知することができたため。
○ 政策企画局企画課等、県各局や関係団体と連携・協力した企画展示を31回実施した。 （p61～p64「①企画展示一覧」参照）	A	A	県各局や関係団体と連携・協力して、県等の事業を紹介するパネル等と、それに関連した図書館資料を併せて展示することにより、資料の利活用につなげることができたため。
○ 企画展示「起業・事業承継を応援します！」を実施した（1/13～2/28）。関連イベントとして、日本政策金融公庫等と連携してセミナー「人生100年ライフシフトの時代 起業は働く選択肢の一つ」を開催した（2/4）。	A	A	起業に関する展示を実施し、所蔵の関連資料を紹介するとともに、専門機関と連携して起業セミナーを開催できたため。
○ 講座の開催は行わなかったが、利用者への案内について職員間で情報共有に努め、通常の利用において個別に利用者を支援した。	B	C	個別に利用者を支援したが、講座の開催は行わなかったため。
《(18)と同様》	A	A	県各局や関係団体と連携・協力し、複数回の企画展示を実施したため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携イベントを10回実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示「愛知県図書館報あゆみ『愛知が舞台』と県政150周年」（3/17～5/11） ・ 地域資料展示「愛知県事始め（2）愛知県の明治」（3/17～6/8） ・ リベラルアーツカフェ関連展示「愛知県の建物150年」（7/15～9/7） ・ 展示「愛知県政150周年紹介パネル展」（10/14～11/9） ・ 展示「愛知県史展」（10/14～12/27） ・ 展示「50年前の雑誌を見る」（10/14～2/28） ・ 展示「150年前の科学技術」（11/11～1/11） ・ 展示「愛知県政150周年記念「わたしたちの住むまち あいちの未来」絵画コンクール入賞作品展」（12/9～2/8） ・ リベラルアーツカフェ2022第1回「愛知県の建物150年」（7/30） ・ 図書館講演会「あいちの歴史資料をさぐる」（12/17） 	A	A	県政150周年にちなんだ企画展示・講演会を複数回実施したため。

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
立② つ地域 図書館の課題 提供と拡充 サービスに の役	地域の課題解決に役立つ図書館をめざします。ビジネス支援を拡充し、健康・医療サービス、行政支援などのサービスに取り組みます。また、地域の活性化や観光振興などのため、県内各地の取組を紹介したり、交流の場を提供します。	(地域連携) (23) 観光情報コーナーについて、県の担当局、県内市町村の観光関係当局、地域の観光協会等と連携し幅広い観光情報の収集・提供を実施し、充実を図ります。 (24) 東三河コーナーについて、県東三河総局、東三河8市町村の観光関係当局等と連携・協力し、東三河の観光情報の幅広い収集・提供を実施します。また、東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施します。
		(県立学校への協力貸出) (25) 県立学校最寄りの市町村立図書館を経由した協力貸出について、学校訪問等によってニーズを確認し、対象学校を拡大します。対象校を19校以上にします。 (26) 県図書館から学校（図書館）に向けて年間3,500冊以上の協力貸出を目指します。（市町村立図書館への協力貸出と合わせて16,100冊以上）【運営指標・数値目標見直し】 (県立高校等と連携した企画展示の実施) (27) 県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を1回以上実施します。
③ 学校や地域、 家庭での 子供読書活動の 支援	子供の読書活動を支援するため、学校図書館を始め関係機関・団体と連携し、資料の提供や、活動への支援を進めます。	(子供読書活動のためのアウトリーチ活動の推進) (28) 子供の読書活動推進のため、読み聞かせやブックトークといったイベントでの協力、学校図書館の運営に対する助言や支援ができるよう体制を整備し、積極的に市町村立図書館や学校等へ職員を派遣します。
		(子供読書活動の推進) (29) 子供読書活動推進に係る関係機関や団体等と連携・協力し、イベントや企画展示を実施します。

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内市町村の観光関係当局、地域の観光協会、市町村立図書館等に観光情報の提供を依頼し収集・提供を実施した。 ○ 県内自治体と連携して観光に関連する企画展示（1/13～2/8）、講演会（1/27）を実施した。 	A	A	幅広い観光情報の収集・提供に加え、企画展示、講演会を実施することで、コーナーの充実を図ることができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「愛知県図書館と東三河地域の市町村及び観光団体との地域振興にかかる情報発信の連携・協力に関する協定」の連携先等に観光情報の提供を依頼し、収集・提供を実施した。 ○ 東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施した（3/16～4/12）。 	A	A	幅広い観光情報の収集・提供によるコーナーの充実を図るとともに、東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施することができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たに尾北高校、春日井高校、豊橋西高校、豊田南高校、一宮西高校の5校に対して、それぞれ、江南市立図書館、春日井市立図書館、豊橋市中央図書館、豊田市中央図書館、一宮市立中央図書館を經由した協力貸出を開始し、対象校を22校とした。 ○ 学校（図書館）への協力貸出3,471冊・点（図書・A V）。（市町村立図書館等への協力貸出と合わせて13,686冊・点）。 	A	A	予定の数を超えて、新規の対象校を増やすことができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校（図書館）への協力貸出についてほぼ目標通りの冊数の貸出ができたため。 	A	B	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下4回の企画展示を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県統計グラフコンクール金賞作品パネル展（6/10～7/13）【主催：県統計課】 ・愛知県定時制通信制生徒による作品発表会（9/9～10/12）【主催：愛知県定時制通信制教頭・副校長会】 ・愛知県政150周年記念「わたしの住むまち あいちの未来」絵画コンクール入賞作品展（12/9～2/8）【主催：県企画課】 ・心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター愛知県入選作品展（12/13～12/27）【主催：県障害福祉課】 	A	A	Yottekoを活用して、定時制通信制高校生徒の作品展を実施したほか、児童・生徒を対象とした絵画や作文コンクールの入賞作品展を複数回行ったため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下の教育委員会等主催の講座に講師・スタッフを派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校司書教諭研修会（10/7）【主催：県教委高等学校教育課】 ・学校図書館関係職員研修会（10/26）【主催：県教委総合教育センター】 ・高校生ビブリオバトル愛知県大会・子供読書活動推進大会（11/3）【主催：県教委生涯学習課】 ・高等学校初任者研修（11/29）【主催：県高等学校校長会】 ○ 高校で県政お届け講座を実施し、図書館について説明（1/18） 	A	A	県教育委員会主催の研修会等で、子供の読書活動推進につながるよう、図書館活用法の講義や、高校生向けの本の紹介を行ったため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供読書活動推進に係る関係機関や団体等と連携・協力し、以下のイベントを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・本の帯コンクール優秀作品展（6/10～6/19）【主催：名古屋市教委】 ・青少年によい本をすすめる県民運動（9/9～10/12）【主催：県社会活動推進課】 ・愛知県子供読書活動推進大会・高校生ビブリオバトル愛知県大会（11/3）【主催：県教委生涯学習課】 	A	A	県教育委員会等と連携・協力し、子供読書活動推進に係る展示の実施、子供読書活動推進大会開催への協力を行ったため。

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
及④ び資料 デジタル 保存体 化制の 推整 進備	県の拠点図書館としての資料保存の中心的な役割を果たすために、資料保存体制を整備するとともに、地域資料を中心にデジタル化を進めます。	(あいちラストワン・プロジェクトの拡大)
		(30) あいちラストワン・プロジェクトを効果的に進めるため、運用方法の見直しを進めます。
		(資料補修研修の実施)
		(31) 資料補修技術を有する職員養成のため、引き続き研修を実施します。
		(資料のデジタル化の推進)
(32) New! 貴重和本を新たにデータ化し、順次調査したうえで「貴重和本デジタルライブラリー」等のホームページで公開します(目標: 8タイトル)		
(蔵書収容能力の維持・管理)		
(33) 開架及び閉架書庫の有効活用を図るため、適切な計画に基づく書庫への配転作業及び除籍候補選定のための複本所蔵資料の調査を実施します。		

取組 2 市町村立図書館等への支援

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
相互⑤ 貸借の 拡充	市町村立図書館等との間で運行している資料搬送定期便の効率的な運用により、協力貸出、相互貸借の拡充を図ります。	(市町村立図書館等への協力貸出) 【運営指標・数値目標見直し】
		(34) 県図書館から市町村立図書館に向けて年間12,600冊以上の協力貸出を目指します。(学校(図書館)への協力貸出と合わせて 16,100冊以上)
⑥市 ・町 人村 材立 育図 成書 の館 支等 援の 運用	市町村立図書館等が地域の課題解決に資する質の高いサービスを提供できるよう、運用・人材育成を支援します。	(資料搬送定期便の維持)
		(35) 安定した資料搬送のため、予算確保や運行の効率化に努め、週1回の資料定期搬送便を維持します。
		(図書館訪問)
		(36) 県図書館の市町村立図書館へのサポートのニーズを把握し、それぞれの地域での読書推進活動に資するため、感染症の動向を考慮に入れながら、市町村の中央図書館の1/5以上(10館以上)を計画的に訪問します。感染症が収束せず、計画通りの訪問が難しい場合は、訪問以外の方法で市町村立図書館と情報交換を行い、サポートに努めます。
(37) 図書館未設置自治体についても、公民館図書室等の施設や読書推進活動の担当課等を1以上訪問し、図書館未設置自治体での読書推進活動を把握します。		
(県内の図書館関係者への研修の強化)		
(38) 愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館の状況の把握と研修に対する要望を踏まえ、時宜に適切な内容の研修を、感染症拡大防止策を講じながら、適切かつ効果的な手法を検討し実施します。		

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
○ 業務の効率化を図るため、保存対象をより精査できるよう、ガイドラインの見直しを行った。	B	A	予定通り実施できたため。
○ 館内職員向けの資料補修研修を実施した（6/9）。	A	A	予定通り実施できたため。
○ 大判絵図や高精細な画像が必要な貴重和本等を新たにデータ化したうえで資料調査を進め、「貴重和本デジタルライブラリー」等のホームページで17タイトルを公開した。	-	A	貴重和本を新たにデータ化したうえ、目標を上回るタイトルを公開できたため。
○ 閉架書庫内の複本資料294冊を不用除籍した。 ○ また、開架の円滑な運用を図るため、図書8,788冊を開架から書庫へ配転した。	A	A	開架庫内にあった複本資料の除籍を実施し、計画的な配本を行うことができたため。

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
○ 市町村立図書館等への協力貸出10,215冊・点（図書・AV）。（学校（図書館）への協力貸出と合わせて13,686冊・点）	A	B	目標の80%を超える（85.0%）冊数の貸出を行うことができたため。
○ 年間を通し、週1回の資料搬送定期便の運行を行った。 ○ 市町村立図書館職員に適切な利用方法を周知して効率化に努めるとともに、予算を確保し2023年3月から1年間の業者との契約を行った。	A	A	毎週の運行を安定的に行うことができたため。
○ 以下の市町村立図書館（13館）を訪問した。 豊橋市中央図書館、一宮市立中央図書館、瀬戸市立図書館、半田市立図書館、豊田市中央図書館、犬山市立図書館、知立市図書館、高浜市立図書館、岩倉市図書館、田原市中央図書館、清須市立図書館、北名古屋市図書館、幸田町立図書館	A	A	予定していた数を超える13館の訪問を行うことができたため。
○ 豊根村、東栄町を訪問した。	A	A	予定していた数を超える2件の訪問を行うことができたため。
○ 以下の研修を実施した。 愛知県公立図書館長協議会主催で3回、愛知図書館協会主催で12回、両団体の共催で2回の研修を実施した。 （p12～13「イ 愛知県公立図書館長協議会の研修」、p13～14「ウ 愛知図書館協会の研修」参照）	A	A	ほぼコロナ禍前の研修回数を開催できた。集合研修を基本に実施し、加えてできる限り同時配信や録画配信も実施することで、研修機会を増やすことができたため。

取組 3

サービスを広げる図書館ネットワークの形成

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
⑦ 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供	各種団体や行政機関と連携して講演会や資料展示会等を開催し、県民の方と県図書館、各種団体及び行政機関が持つ知的資源を結び付けます。	(文化芸術機関等との連携) (39) 愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県公立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。
		(行政機関・関係団体との連携・協力) (40) 県図書館が所蔵する行政資料や地域資料の一層の利活用を図るために、県の事業や本県の特長（ものづくり等）に関連した企画展示を、県各局や関係団体と連携・協力し実施します。《(18)の再掲》
		(41) 2022年度が本県県政150周年であることから、県政にちなんだ講演会などの企画展示を実施します。《(22)の再掲》
		(県立高校等と連携した企画展示の実施) (42) 県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を1回以上実施します。《(27)の再掲》
		(県公文書館との連携) (43) 県公文書館と連携・協力して、県図書館と県公文書館が所蔵する地域資料・県関係行政資料の利活用を促進します。
		(事業年報・館報の刊行) (44) 「事業年報」及び館報「あゆち」の発行については、昨年度並みの時期の発行を目指すとともに、内容について、時宜に即したものとなるようにします。
⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	県図書館の活動を県民に知ってもらい、身近な存在となるようホームページ、ソーシャルネットワークサービス（SNS）や動画サイトなど様々なメディアを活用し、広報活動の強化に努めます。	(SNSの活用) (45) 引き続き既存のSNS（Facebook、Twitter）の内容の充実を図るとともに、新しい種類のSNSの活用を検討し、フォロワー数の増加（5%）を目指します。
		(46) 新しく導入した電子書籍サービスの一層の利活用を促進するため、効果的なPRの方策を検討・実施します。
		(ホームページの見直し) (47) ホームページについて、トップページのバナーの配置などを見直し、情報が探しやすくなるように改訂します。
		(主要紙での広報) 【運営指標】 (48) 主要紙での広報について、県図書館の取組みを伝えるもの（企画展示の案内を含む。）が80%以上となるようメディアに働きかけます。

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下の講演会や企画展示を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術に関する連続講座 (p61～p64「①企画展示一覧」、p64「②文化芸術に関する連続講座2022」参照) ・リベラルアーツカフェ (p61～p64「①企画展示一覧」、p64～p65「④リベラルアーツカフェ」参照) ・企画展示「祝 ジブリパーク開園！ジブリ関連図書展示」(10/14～12/7)【連携先：ジブリパーク推進課、愛知県美術館】 	A	A	県の文化関連施設と連携し、講演会・企画展示を実施したため。
《(18)と同様》	A	A	県各局や関係団体と連携・協力して、県等の事業を紹介するパネル等と、それに関連した図書館資料を併せて展示することにより、資料の利活用につなげることができたため。
《(22)と同様》	A	A	県政150周年にちなんだ企画展示・講演会を複数回実施したため。
《(27)と同様》	A	A	Yottekoを活用して、定時制通信制高校生徒の作品展を実施したほか、児童・生徒を対象とした絵画や作文コンクールの入賞作品展を複数回行ったため。
○ 横断検索システムでの連携について調整を進めた。	B	B	横断検索システムの連携について調整を進めたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「事業年報」(10/28付刊行) ○ 館報「あゆち」(10月刊行) 	A	A	「事業年報」について予定どおり発行し、「あゆち」については県政150周年にあわせた内容・時期に発行することができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ SNSにて837回発信を行った。 ○ 3月末現在フォロワー数：2,546人 (対3月末(2,345人)比 8.6%増) 	A	A	フォロワー数増の目標値を達成したため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子書籍KinoDenトップのおすすめ本棚を定期的(月1回程度)に更新した。また、館内の展示とテーマを連動させた本棚も作成し、同時に館内展示でも電子書籍を案内した。 ○ Twitterで2週間に1回程度電子書籍の紹介をした。 	A	A	館内展示やTwitterなども活用し効果的なPRに努めたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ バナー配置などを随時修正した。 ○ 県のICT活用課題解決支援事業の実証実験(情報政策課)に参加し、実証実験としてチャットボットをWebページに搭載した(11月～1月)。2月に実証実験報告書作成、3月に成果を公表した。 	A	A	目標通り実施できたため。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下について記者発表を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツカフェ(3回) ・文化芸術に関する連続講座(1回) ○ 主要5紙の記事掲載15件のうち、15件全て(100%)が県図書館の取組みを伝えるものであった。 	B	A	目標値を達成したため。

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	県図書館の活動を県民に知ってもらい、身近な存在となるようホームページ、ソーシャルネットワークサービス（SNS）や動画サイトなど様々なメディアを活用し、広報活動の強化に努めます。	(電子書籍サービスのPR) (49) 新しく導入した電子書籍サービスの一層の利活用を促進するため、効果的なPRの方策を検討・実施します。《(46)の再掲》
		(会議やアウトリーチ活動等での広報) (50) 引き続き、会議や研修、アウトリーチの場を使い、県図書館の広報に努めます。
		(利用者参加型の企画の実施) (51) 「図書館探検ツアー」やワークショップなどの利用者参加型企画について、安全対策をとり再開する準備をします。
		(文化芸術機関等との連携) (52) 愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県公立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。《(39)の再掲》

取組 4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備

行動目標	概要	2022年度事業の点検・評価
		事業計画 (網掛けは特に重点を置いて取り組む事業)
⑨ ものづくり的な資料の収集と資料提供などの	改正した収集方針等に基づき、ものづくり文化資料、地域資料等を重点的に収集し提供します。また、拠点図書館として市町村立図書館の蔵書を補完する役割を果たし、県図書館ならではの専門的な資料や研究書等を中心に充実した蔵書を収集し提供します。	(蔵書検索アクセス数) (53) 本県の特性に応じた、県図書館らしい蔵書構築やその充実に努め、蔵書検索アクセス数を年間180万件以上となるよう努めます。（運営指標）（あいち文化芸術振興計画2020数値目標）
		(重点収集資料の受入れ) (54) 重点分野の資料について、引き続き受入点数の50%以上を占めるように努めます。
		(社史等ものづくり関係資料の受入れ) (55) 社史等ものづくり文化に関する資料について、担当と協議し、100点以上の受入れを目標に、必要な資料を調査・選定し、収集・整理します。
		(資料の充実を図る事業の検討) (56) 寄附の仕組みを整備し、「あいちBookサポーター」制度等を活用し、資料の充実を図ります。
⑩ 県図書館職員の育成	社会の変化や多様なニーズに応えるため、図書館サービスを効果的・効率的に行う研修や調査研究の実施に努めます。	(館内研修の推進) (57) 県の拠点図書館としての役割について理解を深める館内研修について、規定の回数（10回）実施できるように努めます。
		(職員の研修) (58) 図書館の運営に資する統計学や広報手法等関連領域の研修（eラーニング等非対面型の研修含む。）に職員の受講を促します。（目標：延べ10人の受講）
		(講師派遣・成果発表) 【運営指標・数値目標見直し】 (59) 市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表（会報や学協会誌等での文献発表を含む）を年間20回以上実施します。（地域の要望に積極的に応じるとともに、広報にも努める）

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
《(46)と同様》	A	A	館内展示やTwitterなども活用し効果的なPRに努めたため。
○ 県図書館を会場とした以下において県図書館を紹介した。 ・愛知県公立図書館長協議会定例会(4/21) ・県民文化局局内研修(5/13) ・高校生ビブリオバトル愛知県大会・子供読書活動推進大会(11/3) ○ 久屋ぐるっとアートで「愛知県図書館報『あゆち』23号「特集 図書館と学ぶ愛知県事始め」パネル展」を実施(11/3~11/6)。 ○ 高校で県政お届け講座を実施し、図書館について説明(1/18)。	A	A	会議や研修の場で、県図書館の紹介を複数回行うことができたため。
○ 英語のおはなし会を実施した(1/22)。	A	A	「図書館探検ツアー」は行うことができなかったが、新しいイベントを実施できたため。
《(39)と同様》	A	A	県の文化関連施設と連携し、講演会・企画展示を実施したため。

2022年度事業の点検・評価			
取組状況	昨年度 評価	今年度 評価	理由
○ 蔵書検索アクセス数は年度計2,364,940件(目標値の131.4%)。	A	A	目標値を大きく上回ったため。
○ 受入図書(購入および寄贈)について、重点収集分野の割合は、冊数54.1%を占めた。	A	A	重点分野の受入が50%以上を占めたため。
○ 未所蔵の社史等を調査し、120件を寄贈依頼し、78件の寄贈を受けた。依頼したもの以外も合わせて181件の受入を行った。	A	A	未所蔵社史を調査し、計画的に依頼を行い、100冊以上の社史を収集し利用に供することができたため。
○ 「あいちBookサポーター」として14件(団体6件、個人8件)の寄附を受領し、1,300冊以上の資料の充実等を図ることができた。 ○ 2023年2月から新たに「雑誌スポンサー制度」を開始した。	A	A	「あいちBookサポーター」による資料や備品の充実のほか、新たに「雑誌スポンサー制度」を開始することができたため。
○ 館内研修を12回実施した。 (p10「6 館内職員研修の実施」参照)	A	A	規定の回数を超える開催ができたため。
○ 関連領域への研修に6件9人を派遣した。	B	B	目標値の90%を達成したため。
○ 20件28人の派遣・成果発表を実施した。	A	A	目標値を達成したため。

(別表2) 2023年度の事業計画 (詳細)

目指すべき姿 1 すべての県民の「知りたい」に応える図書館

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業			
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)	
(1) すべての県民への図書館サービスの提供	すべての県民が質の高い図書館サービスを受けることができるように努めます。県図書館への来館が困難な人へは、市町村立図書館等の協力を得たり、インターネットを利用したりして資料や情報を提供します。また、障害者、高齢者、外国人などへの図書館サービスの充実を図ります。	○誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	1	県図書館から市町村立図書館等(学校(図書館)を含む)に向けて、年間16,000冊以上の協力貸出を目指します。【46再掲】	県内図書館等への協力貸出冊数：16,000冊以上	
			2	県内図書館等の蔵書横断検索システム「愛蔵くん」や「雑誌・新聞総合目録」を提供するとともに、内容の充実を図ります。【47再掲】		
			3	来館のほか、メールや電話によるレファレンスサービスを提供します。		
			4	電子書籍について、新たなタイトルの購入を継続し、コンテンツの充実を図ります。また、利用者拡大のため、効果的なPRの方策を検討・実施します。【68再掲】	電子書籍へのアクセス件数：月平均5,541件を上回る	
			5	資料やサービス環境を整備し、利用者のニーズに応えるサービスの提供に努めます。また、アンケートの実施等により、今後のサービス内容検討のための資料とします。	来館者アンケートでの「来館の目的が達成できた」が2021年度(85.6%)を上回る	
			○障害者、高齢者、外国人など様々な県民への図書館サービスの充実			
			6	読書に障害のある方へのサービスや資料の充実を図るとともにより多くの方に周知を行います。		
			7	NEW! 障害を持つ方への郵送貸出サービスをより充実させます。		
			8	大活字本、読み上げ機能に対応した電子書籍など、高齢者にもやさしい資料の充実に努めます。また、読書補助具の点検を行い、必要に応じて更新等を実施します。		
			9	多文化サービスコーナーの資料充実のため、各外国語図書や日本語学習用資料について、100冊を目標に収集します。	多文化サービスコーナー資料：100冊収集	
10	多文化サービスコーナーの活用を図るためコーナーの利便性向上や効果的な広報に努めます。					

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業			
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)	
(2) 人の成長・学びを支える活動	児童やティーンズを対象としたサービスや講演会・セミナーを始めとした生涯学習の支援など、人の成長・学びを支える活動を進めます。	○児童やティーンズに読書の楽しみを伝え知の力を育てる活動	11	若い人たちに読書の楽しみを伝えるため、児童向け「おはなし会」や参加型イベントを実施するほか、ティーンズコーナー利用者に向けた資料展示や参加型企画（てこぼん大賞）を行います。また、インターネットやSNSなどによる情報発信を行います。		
			12	子供の読書活動推進のため、学校図書館の運営に対する助言や支援ができるよう体制を整備し、積極的に市町村立図書館や学校等へ職員を派遣します。【59再掲】		
			13	県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を実施します。【60再掲】		
			14	子供読書活動推進にかかわる関係機関や団体等と連携・協力し、イベントや企画展示を実施します。		
			15	若者・外国人未来応援事業（高校中退者等を対象とした高卒認定試験合格のための学習支援及び外国人を対象とした希望の進路実現のための日本語学習支援）を実施する教育委員会に協力し、会場や資料・学習場所の提供を行います。		
			○県民の知的欲求に応え生涯学習に資する講座等の開催			
			16	愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県公立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会や企画展示を実施します。		
			17	利用者の調査研究を支援するため、各種データベースの活用講座などを実施します。		
			18	健康に関する相談会・講座等の企画を専門機関や外部の団体と連携して実施します。		

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業				
			事業番号	事業内容 数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)			
(3) 県民の求める情報を提供するための資料・サービスの充実	これまで力を入れてきたレファレンスサービスのさらなる充実に努めるとともに、拠点図書館としての役割を果たすべく継続的かつ計画的な資料の収集及び保存を行ってまいります。	○レファレンスサービスのさらなる充実	19	レファレンスサービス関連の研修を、適切かつ効果的な手法を検討し実施します。			
			20	利用者自身が調べる際の手助けとなる「調べ方ガイド」を充実させます。			
			21	国立国会図書館のレファレンス協同データベースに、事例を20件以上登録します。	レファレンス協同データベース事例登録 : 20件以上		
		○拠点図書館としての継続的かつ計画的な資料収集及び保存	22	拠点図書館としての役割を果たすとともに、魅力ある特徴的なコレクションを構築し、蔵書検索アクセス数が年間210万件以上となるよう努めます。	蔵書検索アクセス数 : 2,100,000回		
			23	重点分野の資料について、自館購入資料の50%以上を占めるように努めます。	重点分野資料自館購入点数 : 50%以上		
			24	非流通図書である社史、団体史等について、100点以上の受入れを目標に、必要な資料を調査・選定し、収集に努めます。	社史、団体史等 : 100点以上収集		
			25	貴重本をデータ化した資料や、新たにデータ化する資料を順次調査したうえで「貴重本デジタルライブラリー」等のWebサイトで公開します。【69再掲】	デジタルアーカイブ公開数 : 1,131タイトルから1,140タイトル以上 (数値目標 2027年度1,140タイトル)		
			26	補修の必要な革装図書の調査を行います。			
			27	あいちラストワン・プロジェクトを運用方法の見直しの検討を行いながら効果的に進めます。【53再掲】			
			○寄附制度(あいちBookサポーター等)を活用した資料の充実	28	「あいちBookサポーター」制度を活用し、資料の充実を図ります。		
		29	NEW! 「雑誌スポンサー制度」を活用し、雑誌等の充実を図ります。				
		(4) 地域の文化・産業を支える図書館運営	地域資料及びビジネス関係資料の充実を図ることで地域の文化・産業を支える図書館運営を行ってまいります。	○豊富な地域資料やビジネス関係資料を用いた情報提供等による活動支援	30	県内他機関のデジタルアーカイブ等地域資料情報へのリンクを整備し、Webサイトの「愛知県関係地域資料ポータル」を充実させます。【70再掲】	
					31	レファレンスへの対応に加えて、講演会や所蔵資料の展示事業も実施します。また、専門機関や外部団体との連携をとりながら、利用者のニーズに添ったビジネス支援ができるように努めます。	
32	NEW! 地方創生の核となる地方自治体職員をはじめとした、地域づくりに関わる方々への支援として、雑誌を含めた関連資料を集めたコーナーの設置を検討します。						

目指すべき姿 2 情報発信・交流活動の拠点としての図書館

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業		
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)
(1) 情報発信の拠点化	1階エントランスYotteko（ヨッテコ）等で県の各局と連携して、企画展示や講演会を開催することにより、県政の情報発信拠点としての役割を果たすとともに、「見せる（魅せる）図書館」としての広報活動の充実を図ります。	○県政の情報発信拠点としてのYotteko（ヨッテコ）等の活用			
		33	1階エントランスYotteko（ヨッテコ）等で、県の各局や関係団体と連携・協力して企画展示や講演会を開催し、県政の情報発信と県図書館が所蔵する資料の一層の利活用を図ります。		
		○見せる（魅せる）図書館としての広報活動の充実			
		34	SNS（Facebook、Twitter、YouTube）による情報発信を充実させ、県図書館の情報をより早く、広く提供します。	SNSの発信数と閲覧数 発信数：1,000件 閲覧数：900,000件	
		35	館報「あゆち」及び「事業年報」を発行し、時宜に即した内容のものとなるようにします。		
		36	マスメディアへの情報提供を積極的に行い、図書館の活動を広く知っていただけるようにします。		
		37	会議や研修、アウトリーチの場を使い、県図書館の広報に努めます。		
(2) 賑わい創出と県民の交流を促す場づくり	Yotteko（ヨッテコ）等を活用して、企画展示、イベントを行うことで、県図書館が賑わい創出と県民の交流の場となるよう努めます。さらに、県民との協働、社会参加を促す図書館づくりに努めます。	○Yotteko（ヨッテコ）における交流の場としての新展開			
		39	図書館資料を使った企画展示及び関係機関や団体と連携したセミナー、ワークショップなどのイベントを開催します。	企画展示・イベントの実施回数 展示：50回 イベント：70回	
		40	話し合いができるグループ学習席など、人が集まり交流する明るい空間を提供します。		
		41	NEW！ 新たに制定された「あいち県民の日」（11/27）に関連する展示やイベントを実施します。		
		42	NEW！ 指定管理者と連携したイベントを実施します。		
		○ボランティア活動の機会の提供			
		43	NEW！ 当館で活動する読み聞かせボランティアや、視覚障害者等への朗読ボランティアを対象とした研修会を実施します。また、読み聞かせボランティアを追加募集します。		
○館内スペースの有効活用					
44	NEW！ 新しい場作りやゾーニングについて、他館の状況などの情報収集を行い検討します。				
45	若者や社会人の学習活動を支援するため、大会議室での学習室開放を実施します。	大会議室学習室開放：年間30回程度			

目指すべき姿 3 ネットワークのハブとなる図書館

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業			
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)	
(1) 市町村立図書館等への支援	<p>県民の身近にある市町村立図書館等がより質の高い図書館サービスを提供できるよう、資料の提供・保存、運営の支援、人材育成などの支援に一層力を入れていくとともに、県立学校等に対しても資料の提供、講師等の派遣により、連携を深めていきます。</p>	<p>○市町村立図書館等への支援（協力貸出、運営支援、市町村の人材育成）</p>	46	県図書館から市町村立図書館等（学校（図書館）を含む）に向けて、年間16,000冊以上の協力貸出を目指します。【1再掲】	県内図書館等への協力貸出冊数 ：16,000冊以上	
			47	県内図書館等の蔵書横断検索システム「愛蔵くん」や「雑誌・新聞総合目録」を提供するとともに、内容の充実を図ります。【2再掲】		
			48	安定した資料搬送のため、予算確保や運行の効率化に努め、週1回の資料搬送定期便を維持します。		
			49	「@ライブラリー」の実施について、県図書館が愛知県公立図書館長協議会等のネットワークを通じて、企画調整や広報の充実を行います。		
			50	県図書館の市町村立図書館へのサポートのニーズを把握し、それぞれの地域での読書推進活動に資するため、市町村の中央図書館のうち10館以上を、計画的に訪問します。	市町村の中央図書館訪問館数 ：10館以上	
			51	図書館未設置自治体についても、公民館図書室等の施設や読書推進活動の担当課等を1以上訪問し、図書館未設置自治体での読書推進活動を把握します。	図書館未設置自治体訪問施設数 ：1以上	
			52	図書館未設置市町村に対して、貸出文庫の貸与のほか、相互貸借を拡充します。		
			53	あいちラストワン・プロジェクトを運用方法の見直しの検討を行いながら効果的に進めます。【27再掲】		
			54	愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館の状況の把握と研修に対する要望を踏まえ、時宜に適した内容の研修を、適切かつ効果的な手法を検討し実施します。		
			55	NEW! 県図書館と市町村立図書館職員との人事交流を試行実施します。【80再掲】		
			○県立学校等との連携			
			56	県立学校最寄りの市町村立図書館を経由した協力貸出について、学校訪問等によってニーズを確認し、対象学校を拡大します。	市町村立図書館経由で貸出を利用する学校数 ：22校から24校以上に拡大 (数値目標 2027年度までに35校)	
			57	県図書館から学校（図書館）に向けて年間3,500冊以上の協力貸出を目指します。（市町村立図書館への協力貸出と合わせて16,000冊以上）	学校への協力貸出冊数 ：3,500冊以上	
			58	NEW! 課題解決学習を始めとした探究活動や修学旅行等の事前学習の際に幅広く活用していただけるようテーマごとの学校貸出用セットを用意し、県立学校等への貸出しを行います。		
			59	子供の読書活動推進のため、学校図書館の運営に対する助言や支援ができるよう体制を整備し、積極的に市町村立図書館や学校等へ職員を派遣します。【12再掲】		
			60	県立高校等の児童・生徒による学習活動の発表の場としてYotteko等を活用した企画展示を実施します。【13再掲】		

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業		
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)
ネ(2) ネットワークの活用	東海・北陸地区の県立図書館のネットワークを活用した広域的な相互貸借体制を維持、発展させていくなど、広域図書館ネットワークの活用を図ります。	○東海・北陸地区図書館の相互貸借や研修の相互受講			
		61	東海北陸地区公共図書館協議会等の場で、研修の相互受講について、提案・意見聴取します。		
(3) 図書館を取り巻く機関との連携強化	図書館だけでなく、博物館、美術館、公文書館、大学、観光・商工団体等、県図書館を取り巻く多様な団体と連携、協力を図り、県図書館のさらなる認知度向上、利用者増を図っていきます。	○国立国会図書館との連携強化			
		62	国立国会図書館が提供する「JAPAN/MAR C (ジャパンマーク)」を利用した書誌データの安定的な運用を進めます。		
		○愛知芸術文化センター栄施設との連携			
		63	愛知芸術文化センター栄施設を中心として行われるイベントなどに合わせて、文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会や資料の展示を実施します。		
		○博物館、美術館、公文書館、大学、観光・商工関係など多様な機関との連携			
64	県公文書館と連携・協力して、県図書館と県公文書館が所蔵する地域資料・県関係行政資料の利活用を促進します。				
65	観光情報コーナーについて、県の担当局、県内市町村の観光関係当局、地域の観光協会等と連携し幅広い観光情報の収集・提供を実施し、充実を図ります。				
66	東三河コーナーについて、県東三河総局、東三河8市町村の観光関係当局等と連携・協力し、東三河の観光情報の幅広い収集・提供を実施します。また、東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施します。				
67	子育ての方に役立つ他の機関や団体のチラシやパンフレット類を常備し、案内・配布します。				

目指すべき姿 4 デジタル技術の活用により新たな社会に対応する図書館

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業		
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)
(1) 非 来 館 型 サ ー ビ ス の 充 実	デジタル技術の活用により、電子書籍やデジタルアーカイブの充実、オンライン利用登録の拡充など、非来館型サービスの充実を推し進めます。	○電子書籍の充実			
		68	電子書籍について、新たなタイトルの購入を継続し、コンテンツの充実を図ります。また、利用者拡大のため、効果的なPRの方策を検討・実施します。【4の再掲】	電子書籍へのアクセス件数： ：月平均5,541件を上回る	
		○デジタルアーカイブの充実			
		69	貴重和本をデータ化した資料や、新たにデータ化する資料を順次調査したうえで「貴重和本デジタルライブラリー」等のWebサイトで公開します。【25の再掲】	デジタルアーカイブ公開数 ：1,131タイトルから1,140タイトル以上 (数値目標 2027年度1,140タイトル)	
		70	県内他機関のデジタルアーカイブ等地域資料情報へのリンクを整備し、Webサイトの「愛知県関係地域資料ポータル」を充実させます。【30の再掲】		
		○オンライン利用登録の推進			
71	オンライン利用者登録を周知し、便利に使っていただけるような広報や案内を行います。				
○オンラインによる複写物の提供（公衆送信）の検討					
72	NEW! オンラインによる複写物の提供（公衆送信）について、他機関等からの情報収集を行い、サービス提供に向けて検討を進めます。				
(2) サ ー ビ ス の D X を 意 識 し た	ボーンデジタル資料※の収集・保存・提供、Webサイトの利便性の向上を図るなど、DXを意識したサービスの提供を行っていきます。 ※ボーンデジタル資料：紙媒体ではなくデジタルのみで発行、公開される資料。	○ボーンデジタル資料の収集、保存、提供			
		73	NEW! 県・市町村が発行したボーンデジタル資料を収集・保存し、当館のWebサイトで閲覧できる仕組みを試行します。		
		○Webサイトの利便性の向上等			
		74	NEW! Webサイトの利便性を向上させるため、Webサイト上で簡易な問合せに対応できるチャットボットを導入します。		
○図書館電算システムの更新					
75	NEW! 図書館電算システムの次期システムへの更新に向けて、利用者にとってより利便性の高いシステムづくりの検討を進めます。				

目指すべき姿 5 持続可能なサービス環境を備えた図書館

取組の柱	内容	主な施策	2023年度事業		
			事業番号	事業内容	数値目標 (網掛けは基本的運営方針の数値目標)
(1) 提供したサービスの育成	県図書館が今後も持続可能なサービスを提供し続けていくため、図書館を支える人材の育成とともにサービス水準の向上に努めます。	○デジタル対応など先進的サービスを提供するための人材育成			
		76	県の拠点図書館としての役割について理解を深め、司書職員の専門性の向上、育成を図る館内研修について、10回以上実施できるように努めます。	館内研修の回数：10回	
		77	司書職員としての専門性をより高め、サービスの提供に必要な最新の情報を提供する研修の受講を促します。	職員研修の受講者数：延べ500人以上	
		78	デジタル技術や統計学、広報手法等関連領域の研修（e-ラーニング等非対面型の研修含む。）に職員の受講を促します。		
		○市町村立図書館支援に資する職員の育成			
		79	市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表（会報や学協会誌等での文献発表を含む）を年間20回以上実施します。	講師派遣や学協会での発表：年間20回以上	
(2) 持続可能な施設管理等	来館者が安全・安心かつ快適に施設を利用することができるよう、県図書館内の体制づくりを進めます。	○新たなサービスに対応するための施設改善検討			
		81	来館者のどなたでも使えるフリーWi-Fiを全館的に運用します。		
		82	NEW! 閉架書庫の書架を増設します。		
		83	地域の拠点図書館としての保存機能を維持するとともに、利用者サービス(閲覧の容易さ、図書の探しやすさ)を向上させるために、資料収蔵スペースを有効に活用できる方法を検討します。		
		○施設老朽化への対応			
		84	施設の老朽化に伴う必要な改修工事を以下のとおり実施します。 ・中央監視制御装置改修工事 ・中央監視室系統パッケージエアコン更新工事		
		85	NEW! 将来的な大規模改修工事の検討を見据えて他施設の状況を調査します。		
		○災害、感染症等の危機管理対応			
		86	災害への対応について、業務継続計画（愛知県庁BCP、地方機関BCP）の運用や防災訓練の実施等により、適切に事業継続できる体制を整えます。		
		○施設管理における指定管理者による効率的な管理			
87	指定管理者との連絡会議を毎月実施し、効果的な連携を図ります。				